

# キャリア支援室における就職支援活動について

大井 浩\*<sup>1</sup>

## 1. はじめに

平成25年4月から当校キャリア支援室において学生に対する就職支援を担当することになった。この1年間の経過と個人的に気づいた点などをここにまとめた。

## 2. 平成25年度の就職支援状況

就職支援の形態は学年全体またはクラス単位の集合教育と個別にキャリア支援室を訪れる学生に対する個別支援などがある。ここでは平成25年度（実際には平成25年1月～平成26年3月の期間にまたがる）において実施した主な項目と実施時期を学年別に分けて列記した。

### 2.1 2015年4月就職予定者（1年生）向けの就職支援

- ① 入校から夏季休暇までの準備教育（4月～7月）  
入校時ガイダンス、インターンシップ紹介、マイナビ、リクナビへの登録、就職活動スケジュールと今年度の特徴を解説、夏季休暇中に準備すべき自己理解、自己PRの指導
- ② Webテストの受験指導、一斉能力試験の実施と解答・解説（7月～2月）
- ③ 自己理解、ジョブカード作成支援（10月～2月）
- ④ 企業説明会へのエントリー方法、内定までに必要な書類、手続きの説明（10月～2月）
- ⑤ 履歴書、応募書類の書き方（11月～2月）
- ⑥ 企業担当者、卒業生の講演（2月）

### 2.2 2014年4月就職予定者（主として2年生）向けの就職支援

- ① 施設内合同企業説明会（就職フェア）実施（3月、4月）
- ② 個別の企業説明会の参加者募集と実施（3月～）
- ③ 個別企業の求人活動支援（1月～）
- ④ 個別学生への応募書類の書き方指導（3月～）
- ⑤ 個別学生への面接指導（3月～）
- ⑥ 応募企業へのインターンシップ準備と実施（5月～）
- ⑦ 不採用者、未定者へのフォローアップ（4月～）



<本校の合同企業説明会（就職フェア）>

## 3. 支援の内容

いくつかの項目について支援内容と気づいた点などをまとめると次のようになる。

### 3.1 入校時から夏季休暇までに実施される準備教育について

専門課程の学生にとっては実施時期の問題があり、実感が伴わないのが実情と考えられる。また、

\*<sup>1</sup>：学務課キャリア支援室

この時期は当校の実習に慣れることを主眼に指導している期間でもある。このような時期に就職の話を持ち出すのは早すぎて学生にとって理解しがたい面が大きい。しかし、専門課程から直接就職する学生にとってはこの時期から開始せざるを得ないのが実情である。応用課程に進学しない学生には繰り返し実情を説明してその気にさせることが肝要であろう。実際に夏季休暇中に自己理解、自己PRなどを書き出した学生はその後の面接練習で飛躍的に上達する事例が多い。

一方、応用課程の学生にとっては最適のタイミングであろう。専門課程で就職した同級生の状況も思い出せるので、受け入れやすい素地が整っていると思われる。

### 3.2 応募書類の書き方、自己PRの内容に関する個別指導について

個別の相談では履歴書などの文章に関する相談が多い。特に「自己PR」については「志望理由」と同様面接で最もよく聞かれる質問である。しかし、残念ながらこれらを軽視している学生が多いのが実情である。練習用の用紙に書いて事前に相談に来る学生はまだ改良の余地がある。締切直前に、かわり映えのしない内容を、清書用の用紙に書いて、相談に来る学生が多い。

また、ほとんどの学生に欠けているのは「自分にはこんな長所があるので、採用すれば企業はこんな良い結果が得られる」という視点、論法である。しっかりした自己PRが書けている学生は容易にそこまでたどり着けるが、一般には相談を受けても自己PR文を「作成する」作業で終わってしまうことが多い。そして文章で精いっぱいの子は、面接では曖昧になってしまう。

### 3.3 個別の面接指導について

面接練習に来る学生も非常に多い。練習に来る学生は面接に苦手意識を持っていることが多いので、改善の可能性は高い。

まず声が小さく気が弱い学生の場合である。3回ノックが「ゴトゴトゴト」の音しか出せない学生もいる。このような学生には、まず離れた場所から話しやすい内容を大声で話させる。次に「どうぞおかけ下さい」と言われても座らず自分ペースで先に大声で名乗るなどの経験をさせる。歩く練習（見つめられる練習）をさせることもある。自分が自信を持って話せる内容は何か、など自己理解に戻って解決する場合も多い。繰り返しの練習で自信を持てば合格するようである。

次に覚えたことを棒読みするだけで相手に伝える意思が感じられない学生の場合である。修正するとノートにとる真面目さは良いが、棒読みは変わらない。このような学生の改善には時間を要するが、文章を短くする、抑揚をつけて大げさに話させるなどしている。

さらには優秀だが細かいことに気がつき過ぎて思うように伝えられない学生もいる。このような学生は話し出すと長くなり、聞いている方が耐えられなくなる。「こんな風に言えば」とコメントすると「そう言うところの問題があって――」となる。「君の優秀な能力を社会で発揮してほしい。そのためには君自身が変わらねばならない」と指導している。

### 3.4 企業説明会について

本校で実施される説明会には3月と4月に実施する合同説明会と個別に実施する説明会がある。合同説明会は1回に50社しか参加できないので、希望企業が殺到している当校の現状に応じたシステムを検討する必要がある。個別企業が当校で実施する説明会は「その場の雰囲気」の影響が大きいようである。そのため学生の希望が1社に偏り、結果として内定遅れの一因となっている。

## 4. おわりに

今後も状況に応じた就職支援を検討していきたいと考えているので、ご理解、ご助言をいただきキャリア支援室を有意義に活用していただければ幸いです。